

I 小学校部会

国語科部会（低学年の部）

研究主題 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成
～単元を貫く言語活動を通した指導のあり方～

1 主題について

豊かな表現力を身に付けるためには確かな思考力（論理的思考）の深まりが必要であると考え、このテーマを設定した。単元を貫く言語活動を通した指導のあり方を探ることによって、思考力を深める学び合いはどうあればよいかに焦点を当て、授業研究に取り組むことにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	5月28日	交流授業（城西小学校）
9月25日	指導案検討会（有浦小学校）	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（有浦小学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日（木）
- ・会 場 有浦小学校
- ・単元名 1年 くらべてよもう「じどう車くらべ」
- ・授業者 田中 悦子

① 授業者から

- ・集中力が続かない子どもも多いが、書くよりも話す活動の方で学び合いができればと考えて授業を行った。子どもたちは少しずつ「話し合う」という気持ちをもってきている。
- ・メインの学習として「つくり①」と「つくり②」を入れ替えて考えさせた。違う理由を「おかしいから」と言う子どもがいたが、今後は自分で説明できる力を育てていきたい。

② 協議

- ・生き生きとした話し合いになっていた。また、板書の工夫、「文のかたち」、早くできた子どもへの手立てなどの指導がよかった。
- ・子どもたちがサイドラインなどで「しごと」と「つくり」を区別して読み取っていた。
- ・教材文の3つの事例を並行して取り上げて進めていたが、見通す段階での時間を短くすることで、「はしご車」についての理解を深めることができたのではないか。
- ・「つくり①」「つくり②」の順序を入れ替えたことで、「しごと」と「つくり」の関係性を考えさせることができていたが、言葉で説明するのは1年生にとって難しかった。模型が効果的で、文に合わせて「つくり」の順序性を実感できるものだった。挿絵からいろいろな「つくり」に気付か



【模型でイメージを視覚化】

せ、人を助けるために一番大事な「つくり」はどれか考えさせてもよかったのではないか。

(2) テーマ研究

単元を貫く言語活動の実践事例を各校から紹介し合った。音読劇、ポスター、リーフレット、なりきり日記、図鑑、小箱などの言語活動の実践事例が出された。各校で付けたい力を明確にしたり、様々な工夫を取り入れたりしながら学習が行われていた。また、単元を貫く言語活動の実践により、子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいたという報告が多く出された。

(3) 指導助言（山口 史人 指導主事）

- ・単元を貫く言語活動がよかった。単元構成が意図的・計画的で「はしご車」について考える書く学習が「自動車図鑑」につながっていた。特に、2次に「はしご車」が入っている点が低学年にとって有効であり、書くことへのつながりが意識できるものだった。
- ・「つくり」と「しごと」を分けて関係を学んだ後に順序性を考えるという構成がよく、思考・判断・表現のある授業だった。説明文の解釈については順序性が大事になるが、その点に本時はあえて気付かせていた。
- ・手立てが子どもの思考の学びを助けていた。模型が子どもの発言をみんなで共有化するための手立てになっていた。低学年は具体物でイメージを視覚化させることが大事である。
- ・いきなり書かせず、話してから書く活動を取り入れていた事が低学年では有効だった。今日のように話しながら思考を整理してあげることが必要である。また、付け足しながら構成を考えたり真似したりしていく力も付けさせたい。本時は、思考・判断して気付いたことを表現するアウトプットを目標とした低学年に有効な言語活動だった。
- ・ねらいと評価について、本時は「しごと」のために「つくり」が工夫されているという順序性について気付くことがメインではなかったか。本時は「読むこと」を押さえて、次時に「書くこと」でもよかった。順序性に気付かせることが構成理解につながってよかったが、これを意識できるようなまとめがほしかった。
- ・学び合いの場面では、「はしご車」の「つくり」を子どもたちから出させて、最も必要なものはどれか考えさせ順序性を意識させるとよかった。「つくり③④⑤」と出させることでも子どもの気付きを学ぶ意欲につなげることができる。
- ・早くできた子どもの中の「交流」はよかったが、「自分の考えは残して、付け足してもいい」などねらいを明確にするとよい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・低学年に身に付けさせたい力、そのために有効な指導や支援の仕方について具体的に学ぶことができた。
- ・提案授業をはじめ、各校の発表から単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりのポイントを学ぶことができた。

(2) 課題

- ・ねらい、おさえるところをはっきりさせた授業づくりをする必要がある。
- ・単元を貫く言語活動との結び付きを子どもが意識できるような単元の展開部（2次）の学習活動を工夫していきたい。

国語科部会（中学年の部）

研究主題 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成
～思考を深める学び合いを通して～

1 主題について

自分の思いや考えを適切な言葉で表現し、互いに表現し合うことができる力を育てたいと考え、本主題を設定した。思考を深めるための学び合いはどうあればよいのかに重点を置き、授業研究に取り組むことにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（上川沿小学校）
8月22日	指導案検討会（上川沿小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日（木） ・会 場 上川沿小学校
- ・単元名 3年 物語の感想をまとめ、交流しよう「ちいちゃんのかげおくり」
- ・授業者 畠山 真由美

① 授業者から

- ・本時は、読み取りの時間にした。話合いが活発になるようになぜという課題を設定した。
- ・「きらきらわらいだした」という部分から、子どもたちは「ちいちゃんは幸せ？」という考えに傾いていた。そこで、死んだという事実を出して、本当の幸せについて子どもたちに考えさせたかったが、叙述が幸せにつながるよう書かれているので、読み取りが難しい部分もあった。
- ・「死んだから幸せではない。」という意見が出るかと思ったが、そうでもなかった。次の五の場面を学習するとまた違うかもしれない。

② 協議

〈視点1〉 焦点化した課題は、叙述をもとに読み取ったことを表現するための手立てとして有効であったか。

〈視点2〉 立場を変えて考えさせる発問は、表現力や思考力を高める上で有効であったか。

- ・ゴールは、子どもの姿としてどのようになっていることなのかを明確にしておきたい。ねらいとゴールと課題の整合性がとれていることが大切となる。子どもたちはちいちゃんの様子をしっかりと読み取っていたが、それを幸せか幸せではないかと聞かれると難しかったのではないだろうか。家族に会えたけれども死んでしまったということを子どもたちに感じ取らせることのできる発問があればよかった。
- ・「空から声がふってくる」など普段と言葉の使い方が違う叙述にこだわる大切だと思う。毎時間こだわりながら読み取ることができれば、もっと話合いが深まると思う。

- ・一の場面と四の場面を比較するなど、観点を与えればよかった。最初のかげおくりの場面が大事ということを押さえさせたい。さらに一の場面と四の場面を比較するには、二の場面と三の場面の学習も大事となってくる。
- ・立場を変えるということ子どもたちが理解できていなかったのではないだろうか。それを押さえ、迫るような手立てがあればよかった。また、立場を変えるということを強調できればよかった。
- ・表現力を高める学習であれば、書いて自分の考えをまとめるということが必要だと思う。ノートなど自分の考えの変容を書きとめるものがあればよかった。
- ・読みながら線を引き、そしてすぐ発表するという流れであったが、話し合いの時間があればよかった。

(2) テーマ研究

テーマを受け、各校の実践を紹介したり、意見交換をしたりした。

(3) 指導助言（能代市立朴瀬小学校 藤嶋 勇人 校長）

- ・授業は評価規準に到達させることが一番大切である。そのための手段として学習課題がある。本時の評価規準は「場面の様子を読み取り」と「かげおくりをしたちいちゃんについて話し合ったこと」とある。最初は「読むことウ」次が「読むことオ」の指導事項であり、この二つは混在することはない。
- ・本時の評価規準は「きらきらわらいだしたのはなぜか？」の答えにあたる内容であり、具体化して書かなければならない。なぜ、評価規準を具体化しなければならないのかというと、その一時間で全員の実現状況を見取るためには、瞬時に判断できる規準でなければならないからだ。実現できていなければ補助的な発問や別の視点を与えながら次の手立てを考える必要もある。
- ・「きらきら笑う」とは何か。きらきらを辞典で調べると「美しく光り輝く」とあるので「美しく光り輝いて笑う」ことである。子どもたち自身に辞典を引かせればよかった。単なる「楽しい」ではない。「にこにこ笑う」でもない。「きらきら」と「にこにこ」を比較させてもおもしろかったと思う。
- ・学習課題としたこの「きらきら」という言葉は非常に重要だ。目の付けどころがシャープである。「きらきら」という表現は、ちいちゃんの最後と現在の平和な世界とをつなぐ言葉であり、ちいちゃんも今の平和な時代を生きたかっただろうと感じさせる表現である。この物語を誤解させないためにも「きらきら」を学習課題として取り上げる必要性が今日の授業で分かった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ねらいを達成するために課題は大変重要であり、教師自身が叙述の細かい部分にも目を向け子どもに気付かせていくことが大切であると確認できた。

(2) 課題

- ・思考を深める学び合いのために書く活動を取り入れたり、切り返しの発問をしたりするなどの工夫も必要である。



【友だちの発言を受けて
発言する学び合いの様子】

国語科部会（高学年の部）

研究主題 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成
～思考を深める学び合いを通して～

1 主題について

自分の思いや考えを適切に表現し、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う子どもを育てる指導の在り方を研究するため、昨年度に引き続き本主題を設定した。確かな言葉の力を身に付けさせるための指導、思考を深めるための単元構成や学習過程等に重点を置き、授業研究に取り組むこととした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（成章小学校）
9月26日	指導案検討会（成章小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期日 平成25年10月31日（木）
- ・会場 成章小学校
- ・単元名 5年 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう「大造じいさんとガン」
- ・授業者 荒川 富紀子

① 授業者から

- ・心情の読み取りをするための方法はいろいろあるが、この学習では、「朗読」を中心にして登場人物の心情を読み取らせていきたいと考えた。
- ・単元を貫く言語活動として「6年生に聞かせる」ことを目標にさせた。
- ・朗読＝聞き手に感動を与えられるような読み方、を指導した。
- ・授業の終わりに必ず朗読をする時間を設けた。
- ・授業の流れとして「登場人物の心情をとらえる～朗読」としてきたが、同じようなことを繰り返しているのではないかという感じを持っている。
- ・口が重い学級なので、書かせてから発表させたり、グループでの話し合いをさせたりなど工夫してきた。
- ・一人一人が読み取ったことを尊重したかったため「～が正しい」などのまとめはしていないが、どうだったか。

② 協議

- ・ノートなどから、子どもたちが心情を読み取るために学習を積み重ねてきたことがよく分かった。
- ・前時までの学習がよく分かる掲示がされていて、学習に必要な環境が整っていた。
- ・グループの話合いは、手引きをもとにスムーズに流れていた。
- ・家庭学習で心情を読み取らせるなど、本時の時間短縮が図られていてよかった。
- ・全体的に声量が小さいのが気になった。
- ・同じようなことの繰り返しになっているところがあったので、最初からグループの話合いでもよかったのではないか。

- ・課題に対してのまとめは必要。それが朗読をするためのよりどころとなる。おさえるべきところはおさえない。
- ・大造じいさんの心情が変化するところは一番大切なところなので、子どもたちに見付けさせたい。
- ・もっと焦点化した話し合いをさせたい。
- ・子どもから引き出したいことをしっかりもって指導していきたい。そうすれば誤った考えもねらいに迫るために生かしていけるのではないか。



【グループでの話し合い】

(2) 指導助言（北秋田市立合川東小学校 小林 寿 校長先生）

- ・秋田の子どもらしい、まじめな授業態度や家庭学習の習慣化に感心した。
- ・「情景」に触れているところがすばらしい。会話や行動などからの心情の読み取りよりレベルの高い読み取りになる。登場人物の心情が風景に映し出される「情景描写」がより含まれている作品に多く触れさせたい。暗示的・予知的な描写をおさえ指導していくことが大切である。宮沢賢治の作品などが、その例である。
- ・今日のねらいを達成するために必要な学習形態の吟味が必要である。15人であれば、グループではなく全体で話し合ってもいいかと思う。
- ・課題について、「～したのはどんな気持ちか」と聞くより、「なぜ～したのか」の方がより話し合いが活発になる。行為の理由を問う話し合いの中に、自然と登場人物の心情が出てくるはずである。
- ・単元を貫く言語活動としては、「6年生への朗読」だけでは弱い。「朗読発表会」がよい。1次で子どもたちの意欲を喚起したい。2次は読み取り、3次は練習としたらどうか。1時間の中に読みの時間をとっているがどうだろうか。分けた方がやりやすいのではないか。
- ・課題に対する答えは必要である。自分なりの思いや考えを大切にする前に、作品の主題をしっかりとらえさせた上で、が前提となる。間違いはしっかり直させたい。
- ・音読と朗読は目的が違う。音読は作品を理解するために読み、朗読は作品を理解した上で他の人に感動を伝えるために読むのである。朗読を初めて経験する5年生の学習を大切に指導していきたい。示範などで子どもたちにしっかり指導していきたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ワークショップ型グループ協議を取り入れたことで、より多くの意見が出され、成果と課題について研修を深めることができた。
- ・単元を貫く言語活動の位置付けや単元構成の工夫及び1時間の学習活動の流れや学習形態の工夫について学ぶことができた。
- ・本時の学習をより深いものにするために、家庭学習で活動を補い時間短縮を図るなど工夫した取組を実践することができた。

(2) 課題

- ・身に付けさせたい力を明確にした上での単元構成や1時間の授業の組み立て方が必要である。
- ・単元を貫く言語活動の効果的な設定をしたい。
- ・「音読」から「朗読」へつなげる適切な指導の在り方が求められる。